

(香港中文大学のレポートの関連部分の翻訳です)

Lecture Active Aging

5月17日午前の学習のテーマは「アクティブ エージング」で、早稲田大学の要請により「ところざわ倶楽部」(民間のシニアグループ)と所沢市役所の職員でした。私達に当地の高齢者に対する公共サービスと民間団体の活動を紹介していただきました。

ところざわ倶楽部

まず、ところざわ倶楽部の3名により、倶楽部の概況と活動内容および媒体の説明がありました。ところざわ倶楽部は、2007年11月に創立された所沢市民大学の修了生のOB会で、年齢は60~80歳(平均年齢74歳)、倶楽部の目的は「生涯学習」で15のサークルがあります。通常の活動は、新春の集い、時局講演会、文芸講座、文化祭などを行っています。各サークルとの共同の活動や一般市民の参加も可能としています。

その後、会長により、具体的な倶楽部の活動内容を紹介いただきました。夏休みの子ども食堂では、高齢者と子どもたちが一緒に食事を作り、食事をする会や、高齢者のボランティアが子ども達に書画、民間伝承の昔話など聞かせたり、所沢の伝統文化、民話など小学校の授業で紹介しています。そのほかのサークルでは、航空公園などでチアダンスを踊ったり、歴史活動グループは、神社・仏閣、古跡などを巡る学習などで歩いています。アジア諸国(香港、上海、タイなど)に駐在したり、出張していた経歴の人達によるアジア研究会は、最近のアジアの諸問題をとりあげて討論会を展開しているとの紹介もありました。

最後に、同倶楽部の媒体として管理運営しているホームページ(www.tokorozawaclub.com)と、広報紙「広場」の紹介がありました。HPは毎週更新し、会の行事、サークルの活動報告やエッセイなどを掲載しています。HPとは別に、毎月発行している広報紙は、ネット環境にない会員にも、最新活動や投稿文などの情報提供しています。

(翻訳: 玉上佳彦)